

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2018（平成30）年 第22週（5月28日～6月3日）

## 今週のコメント

～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎～手洗い、うがいが重要

### 定点把握感染症

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱ともに増加続く」

第22週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は2,863例であり、前週比7.7%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発しん、流行性角結膜炎の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ8.1、3.3、1.1、0.6、0.5であった。

感染性胃腸炎は前週比14%減の1,589例で、南河内14.3、中河内10.3、泉州10.2、北河内9.1である。

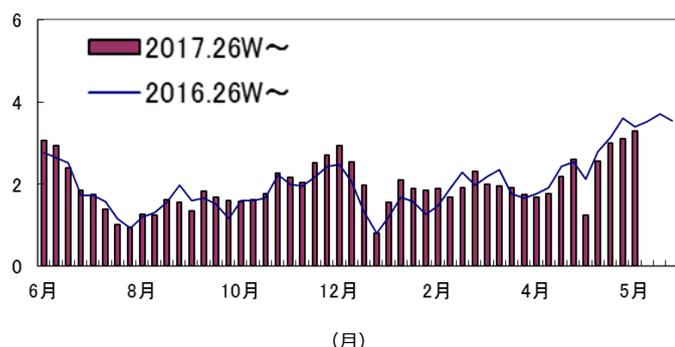
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は6%増の647例で、南河内4.7、大阪市北部4.4、北河内4.0、豊能3.8であった。

咽頭結膜熱は7%増の214例で、中河内2.6、大阪市南部1.5、北河内1.4である。

流行性角結膜炎は22%増の28例で、大阪市南部1.3、南河内1.0であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

(定点あたりの報告数)



咽頭結膜熱

(定点あたりの報告数)

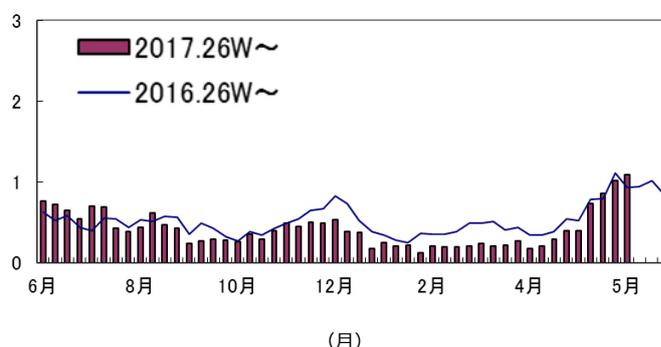


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2018（平成30）年 第22週 5月28日-6月3日）

第22週の順位	第21週の順位	感染症	2018年 第22週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2017年 第22週の 定点あたり 報告数	2018年 第22週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	8.1	14%減	7.5	1歳_15%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.3	6%増	3.4	5歳_13%
3	3	咽頭結膜熱	1.1	7%増	0.9	1歳_33%
4	4	突発性発しん	0.6	11%減	0.6	1歳_57%
5	6	流行性角結膜炎	0.5	22%増	0.4	20歳以上_79%

## 第 22 週のコメント

～クロイツフェルト・ヤコブ病～ 大阪府では、毎年 10 例前後の報告があります

### 全数把握感染症

#### クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）は 100 万人に 1 人の割合で生じ、脳組織のスポンジ状変性を特徴とする疾患である。我が国における発症年齢の平均は 62 歳であり、女性が男性よりやや多い。異常構造を有するプリオン蛋白が中枢神経系に蓄積し、不可逆的な致死性神経障害を生ずる。初発症状は、記憶力低下、計算力低下、失見当識、行動異常などの高次機能障害であり、数ヶ月で認知障害、妄想、歩行困難に至り、1～2 年で全身衰弱、呼吸麻痺、肺炎などで死亡する。経気道感染はないとされているが、大量に病原体を経口摂取した場合の発症が疑われている。現在、有効な治療法はないが、実験室レベルにおいて、プリオン蛋白増殖抑制作用を有する向精神薬が見つかり、治療薬として期待されている。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)

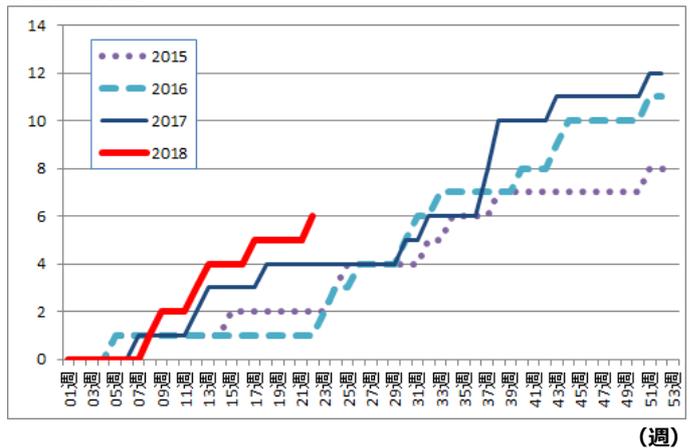


表 2. 大阪府全数報告数（2018(平成 30)年 第 22 週 5 月 28 日 - 6 月 3 日）

\* ) 注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3 類感染症	<b>腸管出血性大腸菌感染症</b>	<b>19</b>		1		1			17	72
4 類感染症	<b>レジオネラ症</b>	<b>1</b>		1						25
5 類感染症 (麻しん、風しんは除く)	<b>クロイツフェルト・ヤコブ病</b>	<b>1</b>							1	6
	<b>後天性免疫不全症候群</b>	<b>1</b>							1	57
	<b>侵襲性肺炎球菌感染症</b>	<b>3</b>						3		151
	<b>梅毒</b>	<b>11</b>	2						9	474
	<b>百日咳</b>	<b>10</b>				2		8		136
結核 (2018 年 4 月分)	結核 新登録患者数：149 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 49 名) (府内累積報告数 576 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 220 名)									
麻しん、風しん	報告はありません									

(2018 年 6 月 5 日 集計分)